

1/7/2

DIALOG(R)File 351:Derwent WPI

(c) 2004 Thomson Derwent. All rts. reserv.

011848400 **Image available**

WPI Acc No: 1998-265310/ 199824

Washed clothes drying bracket for door in collective residence, e.g. for shirt, sheet - consists of several grooves formed on the upper edge of its elongate main body, for supporting a number of hangers to which the clothes to be dried are hung

Patent Assignee: SEKIKAWA M (SEKI-I)

Number of Countries: 001 Number of Patents: 002

Patent Family:

Patent No	Kind	Date	Applicat No	Kind	Date	Week
JP 10085495	A	19980407	JP 96262348	A	19960912	199824 B
JP 2952757	B2	19990927	JP 96262348	A	19960912	199945

Priority Applications (No Type Date): JP 96262348 A 19960912

Patent Details:

Patent No	Kind	Lan	Pg	Main IPC	Filing Notes
-----------	------	-----	----	----------	--------------

JP 10085495	A		7	D06F-057/12	
-------------	---	--	---	-------------	--

JP 2952757	B2		7	D06F-057/12	Previous Publ. patent JP 10085495
------------	----	--	---	-------------	-----------------------------------

Abstract (Basic): JP 10085495 A

The bracket (1) consists of several grooves (5) formed on the upper edge of its elongate main body (2), for supporting a number of hangers (10) to which the clothes to be dried are hung. A fixed connection plate (3) is attached at one end of the elongate main body. A movable connection plate (4) is attached to the elongate main body on the inner side of the fixed connection plate. The connection plate is movably adjusted against the fixed connection plate through a slide guide (6). The elongate main body is supported to a door (9) by pinching the upper edge of the door between the connection surfaces (7,8) of the fixed and movable connection plates.

USE - The bracket is used in bathroom door.

ADVANTAGE - The bracket stabilises attachment condition to upper edge of door, simplifies ironing of clothes after drying, prevents damage to lintel or pillar of room during use and offers small and compact configuration.

Dwg.1/7

Derwent Class: F07

International Patent Class (Main): D06F-057/12

International Patent Class (Additional): D06F-057/00

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公 開 特 許 公 報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平10-85495

(43) 公開日 平成10年(1998) 4月7日

(51) Int.Cl. ⁸	識別記号	F I	
D 0 6 F 57/12		D 0 6 F 57/12	E
57/00	3 9 0	57/00	3 9 0

審査請求 有 請求項の数 7 F D (全 7 頁)

(21) 出願番号 特願平8-262348

(22) 出願日 平成8年(1996) 9月12日

(71) 出願人 596143680

関川 正義

東京都杉並区梅里2丁目25-18 高円寺ハ
イツ402号

(72) 発明者 関川 正義

東京都杉並区梅里2丁目25-18 高円寺ハ
イツ402号

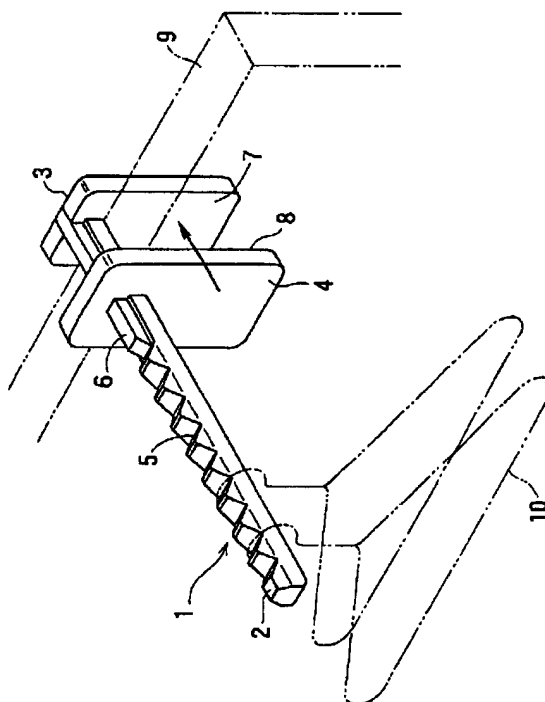
(74) 代理人 弁理士 須磨 光夫

(54) 【発明の名称】 ドア用物干し器具

(57) 【要約】

【課題】 取り付けが簡単で、十分な吊り下げ高さと吊り下げ重量に耐えられる室内用物干し器具を提供する。

【解決手段】 干し物等が掛けられる長尺状本体と、長尺状本体端部近傍に設けられた固定係合部材と、該固定係合部材に対して移動可能に設けられた可動係合部材とを備え、該固定係合部材と該可動係合部材とによって、ドア上端部を跨いで挟むことによって、ドア上端部に取り付けられるドア用物干し器具を提供することで、上記課題を解決する。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 干し物等が掛けられる長尺状本体と、長尺状本体端部近傍に設けられた固定係合部材と、該固定係合部材に対して移動可能に設けられた可動係合部材とを備え、該固定係合部材と該可動係合部材とによって、ドア上端部を跨いで挟むことによって、ドア上端部に取り付けられるドア用物干し器具。

【請求項2】 固定係合部材と可動係合部材とが、それぞれ、長尺状本体に対してほぼ直角に突き出た対向する係合面を有している請求項1記載のドア用物干し器具。

【請求項3】 可動係合部材を、長尺状本体に対して一時的に固定する固定手段を備えている請求項1または2記載のドア用物干し器具。

【請求項4】 可動係合部材が、長尺状本体に対して予め固定されている請求項1または2記載のドア用物干し器具。

【請求項5】 長尺状本体が、ハンガー等を係止する複数の凹部および／または凸部を備えている、請求項1、2、3または4記載のドア用物干し器具。

【請求項6】 長尺状本体が伸縮自在に形成されている請求項1、2、3、4または5記載のドア用物干し器具。

【請求項7】 固定係合部材および可動係合部材が、長尺状本体に対して折り畳み可能に取り付けられている請求項1、2、3、4、5または6記載のドア用物干し器具。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、物干し器具に関し、更に詳しくは、ドアの上端部等に取り付けて使用できるドア用物干し器具に関する。

【0002】

【従来の技術】例えば、浴衣やワイシャツなどは、洗濯後、絞ってしまうとシワになり、後のアイロン掛け等の手間が増えるので、なるべくならば絞らずに乾かすのが理想である。しかしながら、物干し場が近ければ問題はないが、洗濯機のある場所から物干し場まで室内を通らなければならないような場合には、濡れたままの洗濯物を運ぶのは容易ではなく、特に老人にとっては重労働であった。そこで、浴室が洗濯機の近くにある場合には、濡れたままの洗濯物を浴室に干すことができれば便利である。また、下着など人目に触れさせたくない洗濯物も、浴室内に、簡便な手段で干すことができれば便利である。

【0003】しかしながら、浴室内に簡便にセットでき、かつ十分な吊り下げ高さで、吊り下げ重量に耐えられる物干し器具は、なかなか得られていないのが現状である。

【0004】まず、考えられるのは、浴室内にロープを張ることであるが、ロープを結び付ける場所を見つける

のに苦勞するし、濡れた洗濯物をハンガーなどに掛けてぶら下げると、洗濯物の重さでロープがたわみ、特に浴衣やシャツなど丈の長いものは、床に届いてしまうという欠点がある。

【0005】また、内部にバネを備えた伸縮自在の物干し竿を、浴室内の左右の壁面間に突っ張らせて、一時固定するものもあるが、適切な突っ張り力が得られるようにセットするのが容易ではなく、必要な時に簡便に使用できるというものではない。

【0006】一方、急に雨が降ったりして、生乾きの洗濯物を急遽、室内に干さなければならないような場合にも、まず、問題となるのは、ハンガー等を掛ける場所がないということである。鴨居や柱に釘を打つことができれば、そこに、ハンガーや既存の物干し具等を引っかけて一応の目的を果たすことはできるが、掛けたいハンガーの数だけ釘を打たなければならない、柱や鴨居に傷がつくという問題がある。また、洗濯物と壁などの距離が取れず、乾きが悪いという欠点があった。

【0007】鴨居や柱に傷を付けないものとして、ハンガー等を掛けることのできる器具を、上下から鴨居を挟み込むようにしてネジ止めする提案もあるが、ネジによる取り付け力には限界があり、特に重い衣類を掛けた場合には、器具全体が鴨居からはずれてしまうという問題があった。

【0008】このように浴室を含めた室内で、簡便に使用でき、しかも十分な吊り下げ高さで吊り下げ重量に耐えられる物干し器具の開発が強く望まれている。

【0009】

【発明が解決しようとする課題】本発明は、これら従来技術の持つ種々の欠点を解消するために為されたものであり、簡便にセットでき、しかも、十分な吊り下げ高さで吊り下げ重量を有する物干し器具を提供することを課題とするものである。

【0010】

【課題を解決するための手段】本発明は、干し物等が掛けられる長尺状本体と、長尺状本体端部近傍に設けられた固定係合部材と、該固定係合部材に対して移動可能に設けられた可動係合部材とを備え、該固定係合部材と該可動係合部材とによって、ドア上端部を跨いで挟み込むことによって、ドア上端部に取り付けられるドア用物干し器具を提供することによって、上記課題を解決した。

【0011】すなわち、本発明のドア用物干し器具は、長尺状本体端部近傍に設けられた固定係合部材の部分を、まず取り付けるべきドア上端に引っ掛け、次いで、可動係合部材を移動させて、固定係合部材の係合面と可動係合部材の係合面とによってドア上端を跨いで挟み込み、ドア上端部に取り付けて使用されるものである。あるいは、取り付けのドアの厚さに合わせて、予め可動係合部材の位置をセットして固定しておけば、単にドア上端に引っかけるだけの操作で、本発明のドア用物干し器

具を取り付けることができる。

【0012】このように、本発明のドア用物干し器具においては、可動係合部材を移動させることで、固定係合部材との間の間隔を調整することができるので、種々の厚さのドアに適用が可能である。取り付けるドアとしては、浴室のドアに限らず、その他の室内のドアや、ドアでなくても、例えば、衝立等の上端部にも取り付けることができる。

【0013】本発明のドア用物干し器具においては、固定係合部材と可動係合部材、および、固定係合部材と可動係合部材間の長尺状本体とで形成されるコの字型の部分が、ドアの上端部を確実に把持し、長尺状本体部分に重い洗濯物を吊り下げても、ドア上端部から外れることがない。しかも、本発明のドア用物干し器具は、ドアの上端部に取り付けられるので、十分な吊り下げ高さが得られるものである。

【0014】また、長尺状本体には凹部または凸部を設けてあるので、ハンガー等を複数吊り下げても、それらの間隔を適当に保つことができ、洗濯物が片寄ったり、互いに接触したりすることがない。

【0015】本発明のドア用物干し器具は、洗濯物だけでなく、通常の衣類を掛けることもできるが、特に、浴室のドアに取り付けて濡れたままの洗濯物を水を切らずにそのまま干す場合には、極めて有用である。

【0016】

【発明の実施の形態】図1に、本発明のドア用物干し器具の一例を示す。図1において、符号1で示されるドア用物干し器具は、長尺状の本体2と、長尺状本体2の端部に設けられた固定係合部材3、および、長尺状本体2に対して摺動可能な可動係合部材4とから構成されている。5は、例えばハンガー10などが係止される凹部である。この図では、限られた数の凹部しか示していないが、実際には、長尺状本体2の長さを長くして、もっと多数の凹部を付けることも可能である。このように凹部5が設けられていることにより、ハンガー等を複数ぶら下げた場合にも、ハンガーが片寄る恐れがない。また、図では、凹部の例を示したが、凹部に代えて凸部にしてもよいことは勿論である。6は、可動係合部材4の摺動を確実にするための摺動ガイドである。

【0017】使用する材料としては、木、プラスチック、金属など、種々の材料が使用でき、あるいは、どの部分に使用するかに応じて、それらの材料を使い分けても良い。プラスチックとしては、例えば、ABS樹脂、ポリプロピレン樹脂、FRP、ポリアミド樹脂、強化ポリアミド樹脂、アクリル樹脂、ポリカーボネート樹脂、ブタジエンスチレン樹脂などが用いられ、また、金属としては、各種ステンレス、鉄、銅、亜鉛、アルミニウム、チタン合金などが用いられる。

【0018】図1の例において、ドア用物干し器具の取り付けは、まず、図に示すように、固定係合部材3をド

ア9の上端部に引っかける。次いで、可動係合部材4を矢印方向に移動させ、固定係合部材3の係合面7と、可動係合部材4の係合面8とで、ドア9の上端部を跨ぐように挟み込むと、固定係合部材3と可動係合部材4、および、固定係合部材3と可動係合部材4の間の長尺状本体2とで形成されるコの字型の部分が、ドア9の上端部を確実に把持し、長尺状本体2に重い洗濯物を吊り下げても、本発明のドア用物干し器具1がドア9の上端部から外れることがない。

【0019】なお、固定係合部材3ならびに可動係合部材4の係合長さ、即ち、長尺状本体2の下面より下の部分の長さは、取り付けられるドアの幅によってその最適値が変化するが、通常の日産家屋において使用される場合には、約7cmが適当である。約7cmの係合長さがあれば、本発明のドア用物干し器具を安定してドアの上端部に取り付けることができる。勿論、それ以下の長さであっても、それ以上の長さであっても構わない。

【0020】また、固定係合部材3ならびに可動係合部材4の係合幅、即ち、固定係合部材3ならびに可動係合部材4の幅は、広い方が安定するが、あまり広いと取り付けに不都合が生じるので、通常は、約3cmないし5cmが好ましい。可動係合部材4の幅の方を固定係合部材3の幅よりも広くした方が、取り付け安定性を得る上では望ましい。

【0021】図2に、ドア9の上端部に取り付けした場合の、ドア用物干し器具の断面図を示す。図1と同じ部材には同じ符号を付してある。洗濯物等を吊すことによって、長尺状本体2に矢印Wで示すような下向きの荷重が掛かると、本発明のドア用物干し器具は、図2に誇張して示すように、ドア9に対して全体的に傾いた位置で安定する。可動係合部材4の下部には矢印Xで示す方向の力が作用し、また、上部には矢印Yで示す方向の力が作用するが、それらの力は、円A、Bで示される箇所では長尺状本体2によって受け止められる。その結果、可動係合部材4は、長尺状本体2に対して摩擦力によって位置を固定されることになり、特に固定手段を備えていなくても、使用中に位置がずれることがなく、本発明のドア用物干し器具がドア上端部から外れることはない。

【0022】なお、11は、固定係合部材3の係合面7および可動係合部材4の係合面8に設けられたゴムやフェルト等の素材で作られた弾力性のある緩衝部材であり、ドア9の表面に傷が付くことを防止するとともに、ドア9の表面と両係合面7、8との間に適度の摩擦力を与えて、ドア用物干し器具の取り付けをより安定したものとするることができる。

【0023】図3は、可動係合部材4を長尺状本体2に対して一時的に固定する固定手段を備えた例を示す図である。図において、符号12で示されるくさび状の部材が固定手段であって、13で示されるアリ溝内を摺動可能に設けられている。使用に際しては、固定係合部材3

と可動係合部材4とでドア9の上部を跨いで挟み込んだ後、固定手段12を矢印方向に動かして、そのくさび状部分を可動係合部材4と長尺状本体2との間に差し込むことによって、可動係合部材4を長尺状本体2に対して固定する。このようにすることによって、使用中に可動係合部材4が無用に移動することを確実に防止することができる。

【0024】解除に際しては、固定手段12を、矢印と反対方向に動かすことで、可動係合部材4は再び移動可能となり、簡単に解除が可能である。

【0025】なお、図3では、くさび状の固定手段12のみを示したが、固定手段としてはこれに限られるものではない。可動係合部材4を貫通し、先端が長尺状本体2に達するようなネジを用いて、そのネジを締め付けることによって可動係合部材4を長尺状本体2に対して固定することも可能であるし、長尺状本体2の複数の所定位置に予め設けられた係合穴に可動係合部材4を貫通する係合ピンを差し込むことによって可動係合部材4を長尺状本体2に対して固定しても良い。あるいは、図4に示すように、長尺状本体2の表面に設けられた片面が切り立った凹凸部14に、軸15で軸支された固定手段16を係合させるようにしても良い。可動係合部材4を矢印方向に移動させる際には、固定手段16は、凹凸部14の凸部を次々と乗り越えるが、逆向きには、凹凸部14の切り立った凸部が邪魔をするので、固定手段16を軸15を中心に回転させて、係合を解かない限り、戻ることができない。なお、固定手段16は、図示しない弾性手段によって、通常は係合位置に付勢されている。

【0026】また、取付が予想されるドアの厚さに合わせて、長尺状本体2の所定の位置に、可動係合部材4を、予め固定しておいても良い。可動係合部材4の固定位置を種々変えた本発明のドア用物干し器具を、ドアの厚さに合わせて複数種用意しておいて、適宜、使い分けすることも可能である。

【0027】図5は、可動係合部材4の他の例を示す図である。図に示すように、可動係合部材4の下部の幅が上部に比して狭くされていると共に、符号17で示される拡張部材が、可動係合部材4の下部、左右に設けられている。図5では、右側に拡張部材17の折り畳んだ状態を、左側に水平方向に引き出した状態を示してある。図5に示すように、可動係合部材4の幅が狭いと、特に重い洗濯物を吊り下げたような時には、長尺状本体2が矢印Zで示すように左右に揺れて、ドア上端部で踊る恐れがあるが、そのような場合には、符号17で示す拡張部材を水平方向に引き出して使用することによって、可動係合部材4の幅を拡張し、安定性良く本発明のドア用物干し器具を使用することができる。このように、拡張部材17を設けることで、可動係合部材4の普段の幅を狭くすることができるので、ドア用物干し器具をコンパクトにすることが可能である。

【0028】図6は、本発明のドア用物干し器具の他の例を示す図である。図6に示すように、長尺状本体2は、2a、2b、2cの3つの部分から構成され、矢印方向の移動によって、2aは2bの内部に、また、2bは2cの内部に格納することができ、使用時には逆に引き出すことができるようになっている。

【0029】固定係合部材3、および、長尺状本体2の部分2cに対して摺動可能に取り付けられた可動係合部材4は、共に、断面コの字状に形成され、例えば、蝶番18等の手段で、長尺状本体2の部分2cに対して折り畳み可能に取り付けられている。すなわち、不使用時には、固定係合手段3と可動係合手段4とは、共に二点鎖線で示される位置に折り畳まれているが、使用に際しては、長尺状本体2の部分2cに対して直角に引き出される。固定係合部材3および可動係合部材4は、蝶番18によって、長尺状本体2の部分2cに対して直角以上に回転することができないように取り付けられているので、図示しないドアの上端部と良く係合して、外れることがない。折り畳み時には、固定係合部材3のコの字型断面内に可動係合部材4が、あるいは、逆に、可動係合部材4のコの字型断面内に固定係合部材3が、それぞれ収容されるようにすれば、一層のコンパクト化が可能である。

【0030】このように、長尺状本体2を伸縮自在に構成し、固定係合部材3および可動係合部材4を長尺状本体2に対して折り畳み可能に構成することによって、本発明のドア用物干し器具は、掌サイズにまで小さくすることが可能であり、特に旅行などに携帯する上で便利である。

【0031】なお、以上の例は、いずれも、可動係合部材4が固定係合部材3よりも、長尺状本体2の内側にある例を示したが、固定係合部材3を可動係合部材4よりも内側に取り付けても良いことは勿論である。

【0032】また、可動係合部材4は、いずれも、長尺状本体2に摺動可能に取り付けた例を示したが、可動係合部材4は、固定係合部材3に対して、ドアの幅に応じた距離に移動できれば良く、例えば、固定係合部材3に対して摺動可能に取り付けられても良い。

【0033】以下、実施例に基づいて本発明を説明するが、本発明はこれに限られるものではない。

【0034】

【実施例1】図1に示すようなドア用物干し器具をラワン材で作製した。固定係合部材を長尺状本体端部に接着剤で取り付け固定した。長尺状本体下面から下の長さは7cm、幅は3.5cmとした。可動係合部材は、長尺状本体が貫通する摺動穴を開けた半割り部材を接着剤で接着することによって作製した。長尺状本体下面から下の長さは同じく7cm、幅は、4.5cmとした。

【0035】長尺状本体の上面に波形の刻みをつけ、ハンガー等を係止する凹凸部とした。波形の刻みの数は2

0個とし、長尺状本体の長さは約50cmであった。

【0036】図7に示すように浴室内の折り畳み式のドア9の上端部に取り付けて使用した。濡れたままの男子用浴衣、シーツ、バスタオルを掛けたが、長尺状本体2の先端が若干下がっただけで、取り付け状態は安定していた。また、男子用浴衣の下端が浴室床に触れることもなかった。

【0037】

【実施例2】厚さ約1mmのアルミニウム板を切断、折り曲げて、図6に示すようなドア用物干し器具を作製した。2cの部分の長さは約10cm、2b、2aを備えた三段式とし、係止用波形の刻みの数は全部で8個、2b部分、2a部分を引き出した時の長尺状本体の長さは約27cmであった。

【0038】固定係合部材および可動係合部材の長さは共に約7cm、幅は共に約2cmとした。長尺状本体の2c部分への取り付けは蝶番を用いた。

【0039】すべてを折り畳むと、長さは約10cm、幅は約2cm、高さは約3.5cmとなり、ポケットに入れることができた。

【0040】浴室内の折り畳み式のドア上端部に取り付け、濡れたままの男子用ワイシャツ2枚、タオル1枚、靴下1足を掛けたが、取り付け状態は安定していた。また、長尺状本体先端の下がりも若干程度であった。

【0041】

【発明の効果】以上、述べたように、本発明のドア用物干し器具は、ドア上端部に取り付けて使用するものであるので、十分な吊り下げ高さが得られると共に、固定係合部材と可動係合部材とで、ドア上端部を跨ぐようにして挟み込むので、極めて安定した取り付け状態が得られ、濡れたままの重い洗濯物も十分に吊り下げることができる。

【0042】特に、浴室内で使用する時には、濡れたままの浴衣やワイシャツ、シーツ等を、離れた位置にあるベランダや物干し場まで運ぶ作業が不要となるだけでなく、絞らずに干せるので、シワにならず、後のアイロン掛けが極めて簡単になるという利点がある。また、生乾きのものを室内に干す場合にも有効で、鴨居や柱に傷を付ける恐れがないので、アパートやマンション等にも最適である。

【0043】しかも、本発明のドア用物干し器具を折り畳み可能なように作製すれば、極めて小さくすることができ、旅行にも携帯することが可能であり、実用上、極めて有用な発明である。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明のドア用物干し器具の一例を示す図である。

【図2】本発明のドア用物干し器具の取り付け状態を示す断面図である。

【図3】固定手段を備えた例を示す部分断面図である。

【図4】固定手段の他の例を示す図である。

【図5】可動部材の他の例を示す図である。

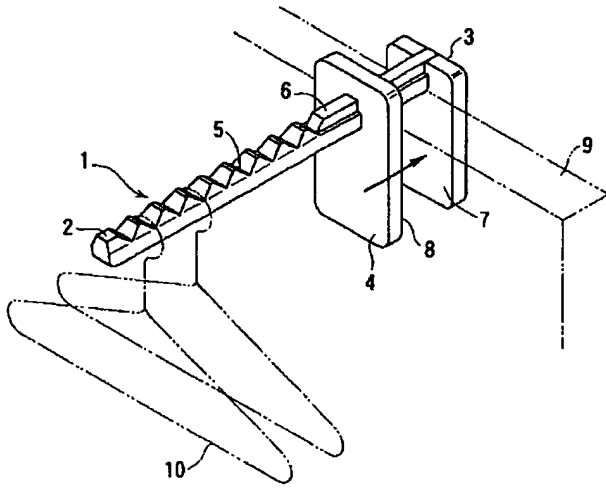
【図6】折り畳み可能なドア用物干し器具を示す図である。

【図7】浴室内のドアに取り付けた使用例を示す図である。

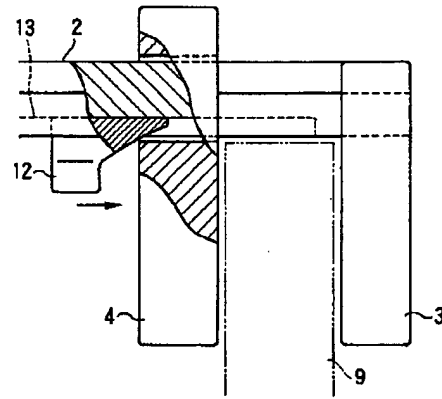
【符号の説明】

1	ドア用物干し器具
2	長尺状本体
3	固定係合部材
4	可動係合部材
5	凹部
6	摺動ガイド
7	固定係合部材の係合面
8	可動係合部材の係合面
9	ドア
10	ハンガー
11	緩衝部材
12	状固定手段
13	アリ溝
14	凹凸部
15	軸
16	固定手段
17	拡張部材
18	蝶番
A、B	可動係合部材と長尺状本体との接触部
W	荷重
X、Y	可動係合部材の受ける力
Z	長尺状本体の揺れ方向

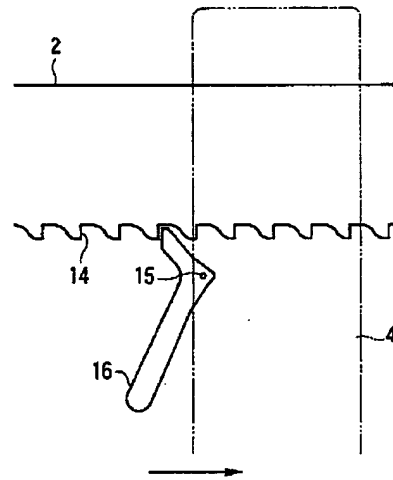
【図1】



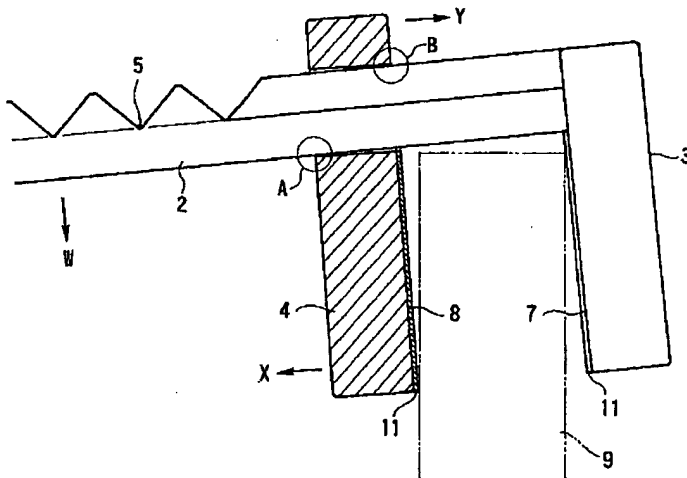
【図3】



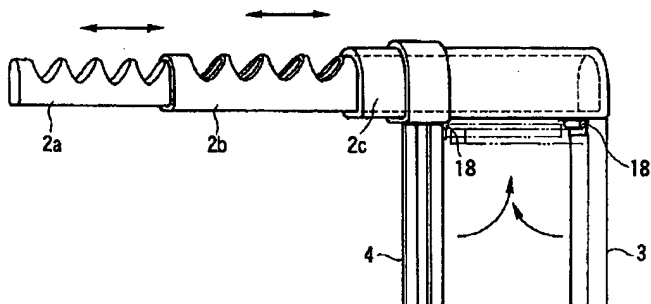
【図4】



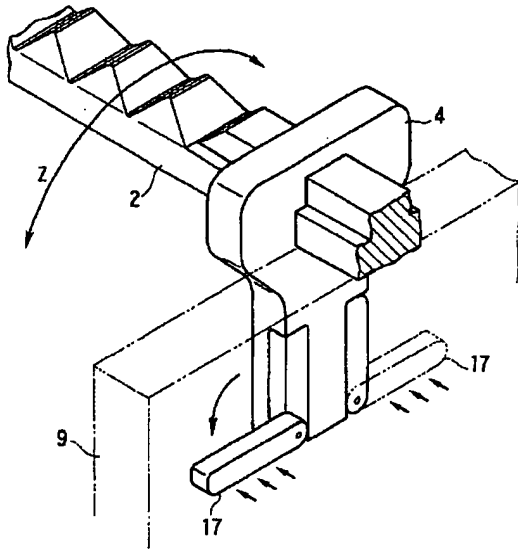
【図2】



【図6】



【図5】



【図7】

